

自蹊庵便り

令和元年 皐月

NO 137

（日本の本の恵みに抱かれて）

京都の春 シンガポールからの客人達まれびと

去年の十月シンガポールに招かれて、茶事懐石の席を二日間に渡り催しました。去年の百三十五号にてその紀行文を御紹介させていただきましたが、御記憶に新しいかと存じます。

その折の感想として一年中三十℃越の氣候風土、従って落葉樹はなくハイビスカスやブーゲンビリアのような花は見かけましたが、日本のような四季折々の多種多様さは望むべくもなく、是非とも京の桜、楓の紅葉を楽しんで頂きたいとの思いも手伝って、この春お招きする運びとなりました。

一番の目的は茶事というものを、席入から始まって、初座、後座の体験をして頂きたいとの強い思いからにございました。

四月六日土曜日の観桜茶事に始まり、七

日は鴨川ほとりの植物園で枝垂れ桜の許で

の野点に見見弁当、午後は都踊りを楽しんで頂き、夜は平安神宮の回廊を巡るライトアップされた夜桜が許、コンサートにも御案内することができ、京都の春を満喫して頂けたのではないかと想っております。

更には八日に京都迎賓館にもじっくり御案内することができ、私共もこのようにゆつくりと京都を楽しむということも初めてのこと、それも四日三晩のフルコースにて、何とも贅沢な時^{とき}というものを賜ったものです。

終日天気晴朗にてまさに「桜花香満衣」桜花の香り衣に満つるの歓迎会にございました。一年の中で最も観光客で混雑する四月の第一週の週末に、スムーズに事が運んだ裏には、京都教室のスタッフの皆様のお力、東京・千葉からの応援組も一丸となつ

てのお持て成しにございました。

お天気が味方してくれたことは何よりの恵みにございましたが、大徳寺瑞峯院にての茶事の折には、着付スペシャリストの御縁も頂き、見事なまでよく似合ったお着物、殿方は紋付き袴での御参加、茶事を終えた広間にての飾り付け、日本の雅の粋^{すい}がほど

こされ、花寄せに貝合せ等々を楽しんで頂けたのも、皆々、陰でのスタッフの並々ならぬ御協力のお陰にございました。また束の間ながら立ち寄らせて頂いた大雄寺での御住職御夫妻の手厚いお持て成しに預かり、盆石と一服の有難い時間を賜ることができましたこと、これもまた、京都

教室の御縁のたまものにとございます。そして今一つ、都踊りもまた、祇園丸山の女将の御尽力にて、最高のお席が用意されていて、お持て成しの心粋きというもの

を、京都の皆様から学び、いつものことなうか。

がら一人では何事もなし得がたく、皆様お

一人おひとりの真心を賜つての一会にござ
いました。

おせわになりました数々の御恩は、心引
き締めて、出逢う皆様の中にお返ししてい
きたく存じます。紙面をもちまして心より
御礼申し上げます。

一期一会とはよく云つたものですね。誠
に帰路往路にても桜のほころびは違い、八
日過ぎは快い風に白河のぼとりはまさに花
筏の風情にございました。

それにいたしましたも、日本という国に
生まれたことを誇りに思える京都の春にご
ございました。平和ということの有り難さを
しみじみと感じております。

この便りが皆様のお手許に届く頃には、
元号も令和と代わっていることでしょう。
日本という小さな小さな極東の島にありな
がら、世界に発信力を持つ不思議な国にご
ざいます。何処からその力が湧くのでござ
いましょう。力の源は何処にあるのでしょ

有難き日々を生かされこの春の

桜花舞敷く木下を歩む

令和という新しき年号迎えんと

襟をただせりなにゆえとなく

鶴女

緯度がちよつとずれていても文化は違つ
ていたかもしれず、島国の恩恵も手伝つて
か、誠にまことに季の恵み豊かな美しい国
にございます。日本人の感性はまぎれもな
くこうした豊かな自然の恵みから育まれて
きた有難い民族なのですね。

平成という年は災害の多い深い傷跡を残

追伸 〳シンガポールの国と

した年でもありましたが、世紀始まつて以

御来賓の皆様のこと〳

来日本が戦争というものに巻き込まれるこ
とのなかった時代で、誠に平成の名に相応
しい有難い時代にございました。そのよう

な有難い平成の締めくくりに外国のお客様
をお持て成しできたこと、この不思議な巡
り合わせ、数々の人為を越えた御縁という
ものに心より感謝申し上げます。

新しく巡ってくる令和という時代が皆様
の上に幸多き世でありますよう。人類の平
和を祈りつつ更なる一服一服でありたいと
願う逝く春にございました。

平成三十一年四月二十日

人以上の細やかな心配り、洗練さは、いつ
磨かれ培われたものか不思議な感じさえい
たします。日本風に云えば一言で云つてこ
れを「教養」というものでしょうか。

深謝

日本よりずっと公共マナーに厳しいのが
シンガポール共和国と聞いております。

タバコのポイ捨ての罰金は当然のことながら、ゴミの投げ捨てやタン、ツバキの吐き捨て、電車の車内や構内での飲酒でも罰金を取られるという国、水の入ったバケツを放置しておいても蚊の発生元になるので罰金の対象となるとか、公共マナーの徹底さはイギリスの植民地であったからのものでしょうか、それとも後の^{のち}国制によるものでしょうか。

ともかくも、礼儀とマナーと振る舞いという三つ揃いの若い御来賓の皆様に頭を垂れることしきりにございました。

皆様四十代後半から五十代前半のバリバリの第一線で御活躍の実力者、きつと若者が夢を抱ける素敵な国、^{とき}時の国がシンガポールという国なのだという印象を持ちました。

茶事教室の御案内 東金教室

皐月の茶事（端午・初風炉）

五月 十九日（第三日曜）

五月 二十日（第三月曜）

五月二十一日（第三火曜） 研究科

席入り 正午

※五月は都合により第三週になります

水無月の茶事（花寄せ）

六月 九日（第二日曜）

六月 十日（第二月曜）

六月十一日（第二火曜） 研究科

席入り 正午

両月とも

点前担当者、水屋実習者 午前九時

八時半に大網駅にお迎えに上がっております。

会費

一万円（レギュラー者）

一万二千元（単発参加者）

○連日研修者は、翌日は五千円参加です。

湯河原教室 口悦会

五月二十三日（第四木曜）

旬の食材を楽しむ会

五月二十四日（第四金曜）

利休会記を読み解く会

※都合により変更になっております

六月十六日（第三日曜）

旬の食材を楽しむ会

六月十七日（第四月曜）

利休会記を読み解く会

会費 一日五千円

二日間 八千円

申込は、事務局 服部 宏子様

神奈川県足柄下郡

湯河原町宮下75713

046512015932

利休会記を読み解く会

五月の京都教室の詳細

会場：若水庵

五月 十八日（第三土曜）

六月二十二日（第四土曜）

午前十時から正午

一服と昼食込みの場合

午後一時半まで

※連日参加者の会費について、

一日分は正規の会費、

他の日は一日五千円の研修費

となります。

宿泊場所 コンドミニウムイルヤ

一泊 五千円

宿泊施設にて、十一日～十三日

午後七時半～午後九時に利休会記を読

み解く会を予定しております。（無料）

GWの影響で、今回のみ大原を会場

として行います。

そこで、従来の最終日の優食会に

代えて、参加者の皆様の御要望によ

り、十一日に摘み草料理懐石を予定

しております。

大原という恵みの場にての摘み草

料理をお楽しみください。

※五月は都合により第三土曜に移動です。

会費 三千元（会のみ）

五千元（昼食・一服付）

※要予約です。

会場 羅漢亭（目黒羅漢寺内）

目黒駅よりタクシーが便利です。

申込は、ファクス又は半澤携帯に

ファクス0475-54-2518

携帯 090-9001-1134

連絡がつかない場合は、

羅漢寺の会代表中山様に御連絡を。

携帯 090-5234-6113